

東京すくわくプログラム活動報告書 ② テーマ:設定遊び

<テーマ設定の理由>

日頃から広いホールを走ったり、リズム遊びをしたりと、体を動かして遊んでいるが、走るだけではなく、マットや肋木、ハシゴ、巧技台等、色々な設定を組み合わせることで、子どもたちがどのようにイメージを持ち、からだを使って遊ぶのか。一人一人の体の動きや、友達同士で遊びがどのように広がっていくのかを見ていく。

走る、跳ぶ、渡る等、体を動かして遊ぶことが好きな子ども達。

様々な体の動きが出来るように設定を組み、子どもたちが楽しく遊べるように考えた。

社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園

4歳児クラス

令和7年9月19日(金)

○活動の内容

ホールの設定をひと通り見ると、ワクワクした様子で「あれ、中に入るんだね」「ケンケンも出来るよ」と前回と違う設定に喜ぶ姿が多く見られた。好きなところから始めたが、待っているときにも友達と楽しみにする様子があった。

子どもの動きの様子

- ・梯子を縦に組み、身を屈めてくぐる
- ・フープ：片足でケンケンする子、両足揃えて跳ぶ子もいる。片足ケンケンは、丸から出ないようにする子もいる。
- ・体技台：飛び石のように置くことで、跳びながら進んでいく。
- ・平均台（一本橋）：立って進む子、腹ばいになり足で蹴りながら進む子もいる。上りきった時には近くにいる大人の顔を見る子が多く、「できたね」と声をかけるとにっこりする子が多い。

○準備したもの

- ・体技台、梯子、平均台
マット、肋木、大縄
フープ



- ・平均台、梯子を使って渡った後、高さのある所からジャンプをして跳び下りる。
- ・肋木：中に縄を数本張り、その中をくぐりながら進んでいく。四つ這いで進む子、腹ばいになって進む子がいる。沢山張ってある縄を見て、どこから入ろうか見ている友だちに「ここ!」「ここから」と言う子や自分で「どこにしようかな」と選ぶ姿もあった。
- ・体技台：高さを変えて並べる。足を上げて跨ぎながら進んでいく。慣れた子は高さによって両足で跳ぶ子もいた。繰り返し行い、慣れてくると足を交互に出しながら進む子もいる。



<振り返り>

- ・前回とは違う設定に、ワクワクする姿が見られる。どんなふうにやってみようか、体の動かし方を工夫したり、友達話をしながら取り組む姿があった。
- ・平均台：高さがあったので、立って進まず腹ばいになる子が多いと思っていたが、ゆっくりと自分のペースで立って進んでいた。出来たときは表情が和らぎ、笑顔になる子がいた。
- ・フープ：片足ケンケンでは、テンポよく進んでいく子がいたり、両足で跳んでいく子もいた。
- ・梯子くぐり：姿勢を低くしてくぐることは、テーブルなどを使って行っているが、梯子を使うことは初めてだったので、早く自分の順番が来ないかと待ちきれない子が多かった。
- ・一通り終わり、戻って来た友だちを笑顔で迎えたり、もう一度やりたいと大人に伝える子が多くいた。体をかがめたり、高い所に上る事、ジャンプする事は気持ちが高まり、もう一回やりたいという声が多かった。子どもの姿ややりたい意見を聞きながら、更なる遊びの展開を考えていきたい。